



2014.2.17 月曜日 第1614回例会  
広島市立広島特別支援学校訪問  
プロジェクト名  
「体育道具の寄贈及び生徒との交流」

生徒にバスケット道具の説明をする教頭先生

2014年(平成26年)2月18日(火曜日) 中国新聞

特別支援学校に  
レク用具を寄贈  
広島中央R.C.  
広島市立広島特別支援学校(RC)は17日、南区の市立広島特別支援学校にレクリエーション用具を贈った。  
贈ったのは、ゴムボールでプラスチック製のピンを倒すポウリング用具を3セット、ハンドボールを5つ、ハンドボールのひらサイズのものを3つ、サークルバスケット用具を2セットと、同校体育館で贈呈式があり、広島中央R.C.の土肥博雄会長たちから50人と小学部4・6年の児童3人が出席。土肥会長が「仲良く遊んでください」とあいさつし、生徒代表の6年西野真希さんが「大切に使います」とお礼を述べた。  
広島中央R.C.会員との児童は一緒にゲームを50万円、広島中央R.C.の会費を充てた。

中国新聞に掲載された記事

## プロジェクトの概要

当ロータリークラブとして、同校への支援活動は3回目の今回を一区切りとしており、1回目は高等部の生徒へ清掃道具運搬用カート一式を、2回目は中学部の生徒へスナッグゴルフ用具一式を贈呈してきました。このたびは、肢体不自由や重い知的障害を抱える児童にも、主体的・積極的に身体を動かして楽しむことができる運動に役立てていただこうと、小学部の児童へポウリング、サークルバスケット用具一式を贈呈しました。何れも児童生徒の将来の自立と社会参加に向けた体力づくり及び余暇活動の充実を図ることが目的。加えて、ゲーム的な活動や接遇などの交流を通して、指導や助言を行うことにより、児童生徒の社会性を高めることにあります。

## 訪問先

広島市南区出島 4-1-4  
広島市立広島特別支援学校

## 参加者

広島中央ロータリークラブ	43名
広島市教育委員会	2名
広島特別支援学校長 保護代表	4名
" 商学部 4.5.6 学年生徒	38名
" 高等部生徒	16名

## プロジェクトの受益者

ポウリングやサークルバスケットは、単純な動作で楽しめ、誰にも分かり易く興味を引き易いものであり、肢体不自由のある児童や知的障害の重い児童にとっても、主体的・積極的に身体を動かし、楽しむことができる運動の一つ。このような運動を楽しむ中で、運動習慣の定着による体力の保持増進だけではなく、自立の基礎となる活動に積極的に取り組む力や、人と関わる力などを高めることが出来るものと期待しています。

指導する教師にとっては、ルールなどの指導、生徒にとっては体を動かしながら、団体行動を学ぶことが可能です。

## 当日のプログラム

1. ロータリアンと生徒で8チームを編成し、ポウリング、バスケットとダンスを一緒に体験した。
2. 高等部生徒の焼いたクッキーとコーヒーで接待を受け、生徒との名刺交換を行った。  
お土産に生徒の焼いたパンを頂いた。

産経新聞に掲載された記事

### 特別支援学校へゲーム用具

障害児らの自立や体力づくりを助けようとして、広島中央ロータリークラブ(土肥博雄会長)は、広島市南区の市立広島特別支援学校に、ポウリングゲームとサークルバスケットの用具一式を寄贈した。  
ポウリングゲームは、ピン10本とボール、台「高さ約15cm」とスロープで台上や床からボールを転がしてピンを倒す。サークルバスケットは高さ約2mの台に立てられた支柱から、ネットが5つ枝分かれして取り付けてあり、そこにボール状のボールを入れる。  
贈呈式は同校体育館で行われ、土肥会長が同校特別支援学校長に贈呈の手交した。その後、さっそくロータリークラブのメンバー40人と小学部4・6年の児童14人が、贈呈したポウリングゲームとサークルバスケットを使って交流した。ポウリングでは、ピンが多く倒れるたび、あちこちで大きな拍手と歓声が上がった。学校では体育や算数の教材として活用する。



ポウリングゲーム



バスケットゲーム



狙いを定めてピンを倒す



全員でダンスゲーム



生徒の作品

スポーツを一緒に楽しんだ後は、高等部1年生との交流会に参加した。名刺交換でコミュニケーションをとった後、自分たちが手作りしたクッキーとコーヒーで接待を受け、学校生活の事や、将来の夢などを聞くことができた。



名刺交換でコミュニケーション



クッキーとコーヒーの接待を受ける会員